

ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 34

★ 当時の犯罪・事件をもとに所蔵資料の紹介をします。

※書名の後の（ ）の数字は請求記号です。

- ◇ 横溝正史の『八つ墓村』や松本清張の『闇に駆ける猟銃』のモデルにもなった「津山30人殺し」について調べてみたいと思います。

キーワードとして、「津山事件」あるいは「津山30人殺し」など組み合わせて検索しても現状では1冊あるいは該当件数がありません。

例えば

図書・雑誌 → 図書 → ことば → 津山事件 (11件該当)

『犯罪の昭和史 1』(368.6 Sa44 1 開架)

※この図書以外はすべてシステム上のノイズと思われます。

ほかに「三十人殺し」で全ての資料から検索すると

『白い自転車』(070 A82)

『週刊朝日 昭和13年6月12日＝第33巻第29号』(051 Sh99 1938-6 雑誌)

など6件の該当件数が示されます。

またどのキーワードにも該当しませんが、

『二十世紀の千人 第10巻』(280 A82 10)→都井睦雄の項であり。

『決定版 昭和史 8』(210.7 Sh97 8)→写真の説明のみ。

『日録20世紀 4』(209 N71 4)→小さな記事のみ。

当時の新聞、『東京朝日新聞 昭和13年5～6月』(071 To46 1938-5)

『昭和ニュース事典 VI』(R210.7 Sh97 6)や

『新聞集成 昭和史の証言 12』(210.7 Sh59 12)があります。

※この2冊の内容は同じ記事がのっていました。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！！・・・ 32

さて、私達が本を読むのは何故でしょうか？

昔のことが知りたいから？。今のことが知りたいから…？。

そうそう、もう一つ、未来のことが知りたいからではありませんか？。昔から未来を予想（予言）した本は案外多いものです。ノストラダムスは別としても、人間にとって「未来」は知りたいものなのでしょうね。

で、本棚を探すと、ずばり「百年後」という本がありました。どこかの古本屋さんの投売り本を買った記憶があります。発行は昭和11年、著者は須之内文雄という人です。内容は至極まともで、衣食住から、産業、技術に至るまで、100年後を想像しています。家庭ごとに自家用車があり、テレビ電話が普及し、東京の中心は、日比谷から新宿、渋谷に移る……。昭和11年は1936年ですから、著者の予想よりも30年も早く実現しているようです。

なるほど、そこで「もう一冊・・・」昭和5年に「2030年」というイギリス人の本が翻訳されています。これも100年後を予見した本で、戦争、産業、日常の100年後が書かれています。こちらは、未来に対してやや懐疑的で、大西洋横断旅客機は無理と書いています。食物に関しては、バイオ技術で、一枚のステーキが多数「培養される」だろうとしています。

当たっているような、当たっていないような…。こう言った科学的な書き方ではありませんが、あのジュール・ヴェルヌが19世紀中ごろに書いた「20世紀のパリ」は、小説仕立ての、言わば近未来SFとして、面白い読み物です。

未来と言えば、大正10年頃に「予言」の本が出ていて、パラパラ読んだら、大正30年、40年の予言があって笑いました。買っておけば良かったなあ！。とは、いつもの後悔です。

さて、もう一冊を探しに行つて来ます。（午睡）



— 図書室から —

世相も季節も何やらあわただしい気配。この時期、「なんだか疲れるなあ…」と思う人も多いことでしょう。何か元気の素をみつけて、気力も体力もつけましょう！

* 新聞架を新たにしました。

従来の新聞架では、利用がしづらいため、広げて閲覧できるように改め、週刊誌の配置も変更しました。位置を確認のうえ、ご利用ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 34

2002年5月23日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1